

# 定例会答弁1. 新型コロナウイルスの影響を踏まえた、今後のスポーツ振興への取り組みについて

## (1) 市民スポーツの振興にどのように取り組むのか？

A: 新型コロナウイルスの感染が広がり、今年の3月以降、やむをえず施設の利用を停止したり、大会を中止したりしたものの、感染が縮小するのにあわせ、本市の施設も、5月12日から段階的に再開しています。引き続き、感染防止策を徹底し、安心して、スポーツに親しめる場所を提供していきます。

また、日本スポーツ協会などが示すガイドラインに沿って、参加者や関係者の安全を確保し、様々なスポーツイベントを開催するようつとめ、関係団体などの活動を支援し、スポーツを楽しむ機会を増やしていきます。今後も、市民の誰もが、自分にあった方法でスポーツに親しめる場所と機会を提供し、市民スポーツを振興したいと考えています。

## (2) 大会や合宿誘致にどのように取り組むのか？

A: 中央公園をはじめとする充実したスポーツ施設や豊かな自然、温暖な気候に加え、空港からのアクセスの良さなど、街の魅力をPRし、大会や合宿の誘致をやってきました。また、東京オリンピック・パラリンピック関係では、愛媛県と連携し、台湾などのホストタウンとして、事前合宿や交流事業にも取り組んできました。

今回の新型コロナウイルスの影響により、海外からの事前合宿や日本スポーツマスターズ、プロ野球フレッシュオールスターゲームなど、多くの大型イベントが中止となりましたが、これまで、施設予約や日程調整、滞在中のサポートなど、きめ細かな対応を行ってきたことから、「コロナの影響が落ち着けば、また、松山で合宿をしたい」という声をいただくなど、本市の受け入れ体制を高く評価いただいています。

今後も、これまで築きあげてきた信頼関係や、蓄積したノウハウを活かしながら、関係者に積極的な働きかけを行い、市民が一体となって盛り上がる事ができる、魅力ある大会や合宿の誘致に取り組むたいと思っています。

## (3) 地元プロスポーツチームへのサポートをどのように行うのか？

A: 本市では、地元プロスポーツの再開を盛り上げるため、広報まつやま6月15日号でチームの応援企画を特集しました。また、小学生の無料招待などを行う「松山市の日」や、中予3市3町が連携して誘客を行う「中予広域の日」などのサポートも、新型コロナウイルスの状況を見ながら、実施したいと考えています。

さらに、愛媛県および本市を含む県内20の市や町などで構成する愛媛県プロスポーツ地域振興協議会では、小・中学生へのスポーツ教室や、大学生を対象としたファン拡大事業に加え、新たにオンラインを活用した選手とファンの交流促進や、チームの情報発信なども行う予定です。



▲ 広報まつやま6月15日号

市民の健康づくりや、スポーツでまちを元気にするためには、公共スポーツ施設の役割が非常に大きいと思います。例えば、本市で言うと、総合コミュニティセンターやアクアパレットまつやまなどがあります。

公共スポーツ施設の今後の課題は、単に営業を再開するだけではなく、運動を市民の生活の一部に組み込んでもらえるように、働きかけることだと、考えています。加えて、施設や設備といったハード面も大切ですが、利用者を増やし、定着を図るためには、サービスやプログラムといったソフト面が、さらに重要です。そして、公共スポーツ施設の魅力を再発信していただき、市民がスポーツをしやすい拠点を目指してほしいと考えています。

愛媛マンダリンパイレーツ、愛媛FC、愛媛オレンジバイキングスは、これまでも、市内の児童や生徒との交流や、地域でのボランティア活動など、試合だけでなく、様々な活動を通じて、多くの市民に、元気を与えていただいています。各チームとも、試合や十分な練習もできない状況だったと思いますが、開幕や再開を迎えるにあたって、今度は、我々が、地元プロスポーツを積極的に応援し、支えていくことが必要だと感じています。



6月12日から7月2日まで、令和2年第2回(6月)定例会が開催され、一般質問をさせていただきました。答弁の要約を載せていますので、ぜひ、お読みいただければと思います。



# 定例会答弁2. 新型コロナウイルスの拡大に伴うごみの円滑な処理について

(1) 新型コロナウイルス感染症のリスクが高まる中、市民にごみの排出についてどのような啓発を行ったのか？ また、今後に向けての課題はあるのか？

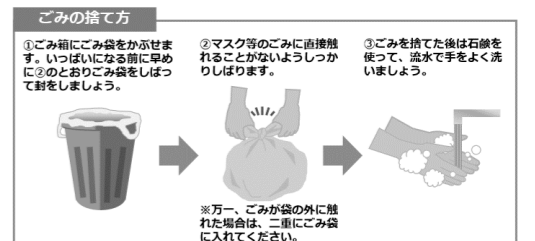
A: 感染が疑われる場合は、ゴミを捨てる際、鼻水などが付着したマスクやティッシュなどに直接触れない、ゴミ袋はしっかりと縛って封をする、ゴミを捨てた後は手を洗うなどの注意事項を、広報まつやまやホームページなどで市民の皆様にお知らせしました。

また、外出自粛による、受診機会の減少によって、本来、医療機関に持参すべき在宅医療で生じた注射針などを、誤って家庭ごみで排出しないよう、松山市医師会や松山薬剤師会と連携して、医療機関や薬局にパンフレットを配布し、正しい排出ルールを、改めて周知しました。

今後の課題ですが、家庭から、ウイルスの付着したごみが排出されるような場合では、ゴミ袋に空気や水分が多く入っていると、収集時に袋が破裂し、感染拡大を招く恐れがあります。平常時から、ゴミ袋の空気を抜くことや水切りを促すなど、ごみ減量リサイクルにもつながるよう、適切なごみの出し方を啓発していきます。

## 新型コロナウイルスなどの感染症対策としての ご家庭でのマスク等の捨て方

新型コロナウイルスなどの感染症に感染した方やその疑いのある方がご家庭にいらっしゃる場合、鼻水などが付着したマスクやティッシュ等のごみを捨てる際は、以下の『ごみの捨て方』に沿って、『ごみに直接触れない』『ゴミ袋はしっかりと縛って封をする』そして『ごみを捨てた後は手を洗う』ことを心がけましょう。



『ごみの捨て方』に沿っていただくことにより、ご家族だけでなく、皆様が出したごみを扱う市町村の職員や廃棄物処理業者の方にとっても、新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスなどの感染症対策として有効です。  
ごみを捨てる際は自治体のルールに従うとともに、ポイ捨ては絶対にやめましょう。使用済みのマスク等のごみを捨てる際にも、『ごみの捨て方』を参考に、『ごみに直接触れない』『ゴミ袋はしっかりと縛って封をする』そして『ごみを捨てた後は手を洗う』ことに注意しましょう。

## ▲ 家庭でのマスク等の捨て方

(2) 新型コロナウイルス感染症対策として、ごみの収集及び処分の体制についてどのようなリスク管理を行ったのか？ また、今後に向けての課題はあるのか？

A: ごみ処理を担う職員が、新型コロナウイルスに感染し、業務が停止しないよう、感染症の拡大が懸念された早い段階から、マスクの着用や手洗い、消毒の徹底、外出の自粛を呼びかけました。収集業務を担う職員は、検温などの健康観察を行い、クラスター発生時の影響を最小限に抑えるため、収集員と車両を固定した上で、控え室を分割した他、トイレなどの共用部分を毎日消毒するなど、感染防止策を徹底しました。

また、ごみ収集業者や、クリーンセンターの運転管理業者に、従業員の体調把握や3密回避など、感染防止策を実施するよう指示しました。

今後の課題については、新型コロナウイルス感染症が拡大または長期化した場合、ごみ処理に必要な人員が不足する恐れがあります。その際には、粗大ごみの収集など、一部業務を縮小し、衛生上、迅速性が不可欠な可燃ごみの処理を継続する必要があると考えています。



外出自粛の生活の中で、今までは当たり前だと感じていた、エッセンシャルワーカーと呼ばれる人たちの仕事のおかげで、私たちの生活が守られていることを、ひしひしと感じました。例をあげれば、医療従事者や公共交通機関で働く人、生活必需品の生産、物流、販売にたずさわる人、さらにゴミの収集や清掃に従事する人たちで、この他にもまだまだ、多くの方が、生活を支えてくださっていました。

ゴミの中には、新型コロナの感染が疑われる人の、マスクやティッシュなども含まれますので、ゴミの収集や処分にたずさわる人は、一般の市民の方よりも、感染リスクが高いと考えます。ゴミ出しルールを守るとともに、この方達が、安全に仕事できるように、市民の協力が不可欠だと考え、今回の質問となりました。

